



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

---

CITATION:

表紙ほか. 岩本ゼミナール機関誌 1997, 1

ISSUE DATE:

1997-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/56834>

RIGHT:

# 岩本ゼミナール機関誌

第1号

1996年度版

京都大学 経済学部

岩本武和研究室

# 岩本ゼミナル機関誌 第1号

## 目次

巻頭の言葉	岩本 武和	3
I ゼミ単位取得論文		
1. 統合通貨としての円	谷口 繁紀	5
2. EU通貨統合の長期的視点からの考察	峯村 英児	28
3. 電子マネーとマネーサプライのコントロール	徳田 竜一	53
4. 再帰理論への挑戦	藤原 健治	75
5. 移行経済に関する一考察	山本 大輔	89
6. 規制緩和に於ける一考察	片岡 孝博	110
7. 国際基軸通貨としての円の現状と将来像	中西 正義	124
8. 経済現象の非線形性と学習アルゴリズムの応用 に関する一考察	中野屋壮吾	143
II 2・3回生年間活動報告	加地 健一	163
III インゼミ活動報告（対関西学院大学） （対東京大学）	鎌田 研人 桐山 友一	167 169
IV 自由論題		
1. Keynes Plan for an International Clearing Union Reconsidered Takekazu IWAMOTO		178
2. メガ・コンペティションに突入するアジアと日本 岩本ゼミ・ティーチングアシスタント 高橋 信弘		196
3. 農産物のブランド化、その限界と可能性 岩本ゼミ・ティーチングアシスタント 柴田 茂紀		204
4. OBからの贈る言葉	'96卒 加藤 寛	216
	'96卒 木村 亮示	
	'96卒 石井 邦彦	217
V 編集後記	谷口 繁紀	218
VI 名簿		220

## 編集後記

岩本ゼミ発足3年目にして初めての機関誌が、今完成しようとしています。ここに至るまで円滑に進んだわけではなかったですが、とにかく無事完成することができ、満足感と同時に安堵感を得ています。いや満足感や安堵感など感じてはいけないのかもしれませんが。「この程度の論文しか君達には書けないのか。」という岩本先生の心中を察することができるからです。もっとも岩本先生はそのような言葉を私たちに浴びせることはなく、いつも私たちの良い所を引き出すように褒められました。単純な私はその褒め言葉を信じて、机に向かったものであります。（先生から、「あまり成果が出ていないじゃないか。」と言われそうですが・・・）私以外のゼミ生も同じような経験をしていることでしょう。

さて、「岩本先生とはどんな方なのか」を私なりに、私の経験からみてみます。失礼なこととは思いますが、私は卒業する身なので最後の無礼講として許して頂ければ幸いです。大学に入学して半年程経った頃、私は書店である本を見つけました。マックス・ウェーバーの「職業としての学問」です。私はこの本を読み、深い感銘を覚えました。そして数ヵ月後、ゼミ紹介を聴き某ゼミと岩本ゼミに大変興味を持ちました。どちらを選ぶべきかと、ゼミで取り上げる教材・先生の発表論文の題名などが載っていた新入生用のパンフレットを調べてみました。すると、岩本先生のページには、新入生に薦める本として「職業としての学問」があり、これを見て、「この先生なら、思想的な立場・考え方の相違があってもうまくやっていけるだろう。」というふうに感じました。さらに、国際経済には興味があったので、岩本先生にお世話になることにしたのです。今になって思えば、私の判断も捨てたものではないと少し自負しています。しかし、ゼミでは社会学や哲学を扱うことはなく、また私もそういった方面の勉強をサボってしまいました。このような経験から、私自身、先生から社会科学全般についてもっと学ぶべきであったと反省していて、後輩諸君には、普段のゼミでは見ることのできない、岩本先生の学問の背後にあるものに注目することを薦めたいです。（少し偉そうな言い方をしてしまいましたが、卒業生の木村さんも同じようなことを書かれているので、そんなにハズレたことで

もないでしょう。)私は、先生の考え方にウェーバーが大きく影響しているように思っていますが……。もし外れていたらみんなで笑ってください。

今まで触れてきた岩本先生よりも、皆さんが馴染みがあるのは酒の席での岩本先生でしょう。飲み会の時には、普通では耳にすることができない話を聞くことができとても楽しかったです。(この内容は、先生自身から聞いてください。)卒業してからも、先生・ゼミ生で飲みに行きましょう。97年の卒業生の進路先(コンサル・情報・官僚・金融・広代・大学院〈工学〉など)を見てもわかるように、本当に多種多様な人間が集まったと思います。2・3回生を見ても、優秀かつユニークな人間が集まっているので、10年20年後の姿が楽しみです。せっかくゼミの仲間という大きな財産をもつことができたのですから、いい関係を保ち続けお互いに刺激し合っていきたいものです。

次に、会計について少し報告しておきます。今年は初のゼミ機関誌ということで資金面で少し苦勞しましたが、4回生1人1万7千円(来年度分1万円を含む)、2・3回生4千円、1回生2千円の負担をし、先生から1万円、OB3人から1万円、TA2人から2千円の寄付を頂きました。このお金はゼミ基金として、今後のゼミ機関誌の費用やOB会などゼミ関連の支出に充てたいと思っています。今回の詳しい収支報告は次号に掲載します(今年は現3回生の田中みゆきが会計を担当)。寄付してくださった方々には、ゼミ機関誌を送付させて頂くと同時に、深く御礼を申し上げます。

最後に、このゼミ機関誌作成に当たって、岩本武和先生、TAの高橋さん・柴田さん、現ゼミ長兼名簿担当の加地君、インゼミ担当の鎌田・桐山の両君、会計担当の田中さんの協力がなければ編集が順調には進まなかったでしょう。もう1人の編集委員である中野屋とともに厚く感謝する次第であります。そして、恩師岩本先生に対して卒業生一同、「3年間有り難うございました。」という言葉をもって3年間の締めくくりとさせて頂きたいと思います。

1997年2月25日

編集委員 谷口 繁紀

岩本ゼミナール機関誌 第1号  
1996年度版

1997年3月25日  
京都大学 経済学部  
岩本武和研究室 発行